



会長代行 菱谷 正樹

平成30年9月19日

9.6北海道胆振東部地震
～ブラックアウトの恐怖～

昨年9月6日(木)午前3時7分に発生した「北海道胆振東部地震」は、札幌市も大きな揺れを感じ、間もなく北海道全域が停電「ブラックアウト」と同時に断水となりました。交通機関は当日の始発から全線運休し、ライフラインが「一時機能停止」に陥りました。

震度7の被災地以外のほとんどの地域は翌日の夜までに電気・水道が回復しましたが、私たち慢性呼吸器疾患患者、特に在宅酸素療法や人工呼吸器を使用する皆さんは大変長い時間に感じられ、不安な2日間を過ごされました。

【6・19山水サロンの概要】

地震から2週間後の9月19日(水)に開催

された「山水サロン」には、会員4名、役員4名、エア・ウォーター社1名の合計9名が参加しました。

今回は、「北海道胆振東部地震」の体験をテーマに話し合が行われました。

〈在宅酸素療法会員の状況〉

最初に、奥様が24時間在宅酸素を使用しているHKさんは、『停電直後に酸素ボンベに切り替えた。午後にやっとエア・ウォーター社と連絡が取れたが、持って来て頂いたボンベは1本のみ、今後が心配なので掛かり付けの病院に連絡し、ベッドが空いていたのすぐに入院させることが出来た』と話されました。

続いて、一人暮らしで長年在宅酸素を続け、寝る時は人工呼吸器を使っているSSさんは、『停電になり玄関口に置いてある酸素ボンベに切り替えた。マンションの廊下は自家発電で灯りが付いたので助かった。朝にはエア・ウォーター社に連絡が取れボンベ3本を持って来てもらった。停電が長引いたらと不安だった』と伺いました。

暗闇の中で酸素ボンベへの切り替えに

手間取ったり、予備の酸素ボンベを入手するにも酸素業者に電話がつかず、不安な時間を過ごされました。停電がさらに長時間続いた時のことを考えると背筋が寒くなる思いだったと推察されます。

お二人の方から当日の状況を伺い、停電時の電源や酸素ボンベの確保をはじめ、緊急時の受入れを掛かり付けの病院に事前確認しておくなどの課題が浮き彫りとなりました。

〈停電時の電源確保について〉

在宅酸素療法を行っている皆さんは、停電時の当座の酸素ボンベや電源の確保が重要です。今回の「サロン」に参加した工藤幹事から「停電時の電源確保」について情報の提供がありました。

「停電時の電源確保」には、自家発電機やバッテリーなどの対応が一般的ですが、在宅酸素療法患者の皆さんには、安全な「蓄電池」の活用が有効だと思いません。

具体的には「家庭用蓄電池」というもので1万円台からありますが、災害時には容量が大きく、より安全性の高いもの

が求められます。

中でも「ポータブル電源装置」は、家庭のコンセントからの充電やソーラーパネルを付けて充電することができ、車のシガーソケットからの充電も可能です。コンセントだけでなくUSBが使えるので、スマホや携帯電話の充電もでき、ライトが付いているものもありますので、災害用に1家に1台あっても良いと思います。

一番のお勧めは、発火や破裂の心配がないという点です。酸素を使用している方々にとっては大切な事です。発売されている製品の中で容量が大きいものは5万円〜6万円台で、楽天やAmazonなどインターネットでも購入できます。購入者からは、『充電後、しばらく忘れて置いていたが、90%残っていた』というコメントもあります。また、酸素を使用していない人たちにも防災用品として活用しており、キャンプینگカーや車中泊にも使われています。これは、いわば大きなバッテリーということですが、もちろん酸素濃縮器にも使えます。やはり普段から使えるというのが良いのだと思

います。

なお、「ポータブル電源装置」の購入に際しては、その使い勝手や経費などを含め、それぞれの病状や居住環境に合わせた十分な検証が必要です。

〈その他の会員から〉

在宅酸素療法を行っていない参加者からは『断水で水の確保に苦労した。停電でエレベーターが止まり8階まで運ぶのが困難で、ペットボトル備蓄の必要性を痛感した』、『携帯電話の充電に苦労した。区役所まで出向いて充電した』、『懐中電灯の電池が切れたが、入手が困難だった』、『生活情報の入手に携帯ラジオの必要性を感じた』などの話を伺いました。

〈9・19「山水サロン」を終えて〉

電源や水の確保、携帯ラジオや電池の整備など、災害への備えが不十分だったことを改めて実感し方々も多いと思います。停電は、地震時に限らず台風による強風でも起こります。

同時に、震災は決して他人事ではなく、北海道に住んでいる自分たちの身近にも

起こり得ることとして、今後の備えに向けて再点検する機会となりました。

厚生労働省の資料によりますと、北海道には、比較的重度の人工呼吸療法患者が約650人、在宅酸素療法の患者は7020人。その患者に対応している在宅酸素療法に係る機器の保守点検を行っている会社は19社、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法に係る機器の製造・販売会社は12社あります。また、在宅人工呼吸器療法を提供している在宅療養支援病院等は72施設あります。

北海道の全域停電（ブラックアウト）に対して、各関係機関がそれぞれのマニュアルにはない事態に陥りました。このことを教訓に様々な見直しが行われていると思います。私たち慢性呼吸器疾患患者も安心して療養生活を送るために、これまでの備えを再点検する必要があります。災害は、忘れないうちに起こります。「北海道低肺の会」では、慢性呼吸器疾患患者に対する災害時の課題に、継続して取り組んでいきたいと考えています。会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。